

論文

韓国の慰安婦運動の「内紛」 — 元慰安婦の挺対協批判の持つ意味

西岡 力（歴史認識問題研究会会長・
モラロジー研究所教授・麗澤大学客員教授）

はじめに

30年以上、激しい反日活動を展開してきた韓国の慰安婦運動が内紛を起こした。元慰安婦が支援組織を激しく批判したことが契機だった。2020年5月7日、元慰安婦の反日活動家である李容洙（イ・ヨンス）氏（以下敬称略）が、支援組織である挺対協（韓国挺身隊問題対策協議会、日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯に改称、以下では挺対協とする）⁽¹⁾と挺対協の前理事長で4月の総選挙で国会議員に当選した尹美香（ユン・ミヒャン）氏（以下敬称略）を激しく批判する記者会見を開いた。その後、李容洙は挺対協と尹美香を攻撃し続け、韓国の主要マスコミが挺対協と尹のさまざまな不正疑惑やスキャンダルについて報道を続けて大騒動となった。

本稿では李容洙の挺対協批判を中心にして韓国の慰安婦運動の内紛を概観し、彼ら、彼女らをそこまで追い込んだ背景に、日韓で積み上げられてきた慰安婦問題の真実を究明し広める努力があったことを見ていきたい。

1 慰安婦運動のシンボルだった李容洙氏

まず李容洙がこれまでどのような活動をしてきたのかを確認しておこう。彼女は朝日新聞などの慰安婦キャンペーンで日韓の外交案件に慰安婦問題が急浮上した1992年、自分も慰安婦だったと名乗り出た⁽²⁾。本稿後半で詳しく見るように最初の証言では貧困の中、だまされて慰安婦になったと語っていたが、その後、少しずつ証言が変わり、寝ていたところ日本軍人に強制連行され、慰安所でも拷問されたなどとセンセーショナルな内容になった。

彼女は92年からずっと挺対協と一体になって反日キャンペーンの先頭に立ってきた。90年代、アジア女性基金のおカネを受け取ろうとした元慰安婦が出る中、挺対協は「アジア女性基金のカネを受け取れば志願して行った公娼になる」という極言まで吐いて妨害した⁽³⁾が、そのときも李容洙は挺対協のこの発言を支持して挺対協とともに行動した。

李容洙の活動が脚光を浴びるのは2000年代になってからだ。2000年、朝日記者出身の松井やよいらが主催した「女性国際戦犯法廷」で証言した。2004年、岡崎トミ子衆議院議員らの紹介で細田博之官房長官と面談して激しく日本政府を糾弾した。

2007年の米下院の慰安婦決議採択に向けて米国、日本を頻繁に訪問した。2月、米国議会下院外交委員会アジア太平洋小委員会の公聴会に証人として出席し、与えられた5分

という発言時間を無視して1時間以上泣き叫びながら「私の名前は李容洙だ。慰安婦という汚らしい名前を私から剥がしてくれ。日本中のカネを全部かき集めてきても私は受け取らない」と日本糾弾を続けた。⁽⁴⁾

4月、安倍晋三首相の訪米に合わせて再度米国を訪れ、安倍糾弾デモに参加し、ハーバード大学などで講演、6月、来日して参議院会館前で行われた「旧日本軍の性暴力被害者に謝罪と賠償を求める国会前スタンディング」でマイクを握る。

彼女の精力的な活動も一助となり、7月に米下院の慰安婦決議が成立した。そのとき、ワシントンで会見して「米国議会がこのように私の恨みを晴らしてくれる契機を作ってくれて感謝する」「国際社会の良心の勝利だ」「日本は私の前でひざまずいて公式に謝罪せよ。国際社会の要求に応えよ」「決議案採択は真実と正義が勝つという証拠だ」と語った。⁽⁵⁾

2012年には現在の与党「共に民主党」の前身である「民主統合党」の比例代表として、国会議員選挙に出馬すると宣言した⁽⁶⁾が、比例名簿に入らなかった。このとき、彼女が今名指しで批判している尹美香が、出馬に強く反対したという。⁽⁷⁾

2015年には米国サンフランシスコ市議会の公聴会で証言し、同市の私有地に慰安婦像を建てようとしていた在米中国人と韓国人の反日団体の動きを支援した。⁽⁸⁾2016年秋からの朴槿恵大統領弾劾を求めるデモでも演説し、2017年5月の大統領選挙では文在寅候補の遊説に現れて支持を表明した。⁽⁹⁾米国議会決議の10年後の2017年には、李容洙氏が米議会で証言したことをモデルにして「アイキャンスピーク」という映画が韓国で作られ、300万以上の観客を集めた。⁽¹⁰⁾その年、11月には、訪韓したトランプ大統領のために文在寅大統領が開催した晩餐会に招かれ、予定になかったトランプ大統領と抱擁する場面を演出した。⁽¹¹⁾

比較的健康で弁が立つこともあって、李容洙は挺対協が主導してきた反日キャンペーンの先頭に立って東奔西走してきたことがよく分かる。慰安婦反日運動のシンボルだったのだ。

言い換えるなら、尹美香と挺対協を批判している李容洙は、実はこの30年間、尹らと共に慰安婦強制連行、性奴隷説という虚構を作り上げてきた主人公だった。いくら尹らが日本批判を展開しても、元慰安婦のおばあさんが隣に立っていなければ、その主張は力を持たない。元慰安婦の中でも挺対協の政治優先路線に反発し、ともに活動をしなかった者たちも多いのだ。

1995年村山政権が作ったアジア女性基金に対して、前述のように挺対協は強く反対し、元慰安婦らがその慰労金を受け取ることを激しく妨害した。しかし、韓国政府に登録された元慰安婦236人のうち、償い金を受け取ったのは61人いた。そのときにすでに4分の1が挺対協から離脱したことになる。⁽¹²⁾このときも李は、慰労金受け取りを拒否した。

2015年の安倍と朴槿恵の慰安婦合意にも、挺対協は元慰安婦に事前相談がなかったと無効を叫んだが、合意時に存命だった元慰安婦47人のうち、約8割にあたる36人が、日本が出資した和解・癒やし財団からの支援金を受け取っている。⁽¹³⁾挺対協の主張に同調して受け取りを拒否した元慰安婦は、たった11人だけだった。やはりこのときも、李容洙は受け取りを拒否した。

李容洙は尹らと共に日本糾弾に同調して、日本の金を受け取っていない数少ない元慰安婦だった。彼女が尹美香の横に立って日本糾弾を続けたからこそ、挺対協の運動はあ

たかも元慰安婦の多数の支持を得ているかのような、虚構のイメージを維持できた。その李容洙が尹美香と挺対協を公開の席で激しく批判したのだから、衝撃は大きかった。

2020年5月7日に李容洙は、自分の住んでいる大邱で記者会見を開いた。その場で李は、これまで共に反日運動をしてきた挺対協と、その前理事長で与党の比例候補上位で当選した尹美香を激しく批判した。

会見で彼女はおよそ、次の4点を挙げて挺対協を批判した。⁽¹⁴⁾

1. 挺対協が集めた多額の寄付金が被害者に渡っていない
2. 挺対協の水曜集会は、参加する生徒らの心に傷をつけるもので、参加を止める
3. 尹美香は国会議員になるべきでない
4. 挺対協の証言集での自分の証言は間違っている

また、李容洙は会見では触れなかったが、後述のようにその後の韓国マスコミの取材などにより、次のような5つ目の問題点が浮上した。

5. 挺対協と尹美香の運動が北朝鮮の対南工作と密接な関係がある

以下、本稿ではこの5つの点について検討していく。

2 挺対協の金銭疑惑

第一に、多額の寄付金を集めている挺対協がそれを被害者のために使っていない、挺対協など運動団体に利用され、だまされてきたという批判だ。まず、会見での李容洙の発言を紹介する。

「寄付金をどこに使っているのか分かりません」

「30年間、だまされるだけだまされ、利用されるだけされたのです」

「芸は熊がやり、おカネはちがう奴が稼ぐのですか」

「私が一番心を痛めているのは、水曜日に炎天下にしながら、学生・生徒らのご両親から少しずつもらっているおカネから寄付します。私はそれが一番心を痛めました。それを見て、これをもらって良いのかと思うときがあるのですが、団体（挺対協）の人たちは当たり前のように受け取ります。あまりにも間違った考えです」

「（水曜集会で）デモをしてお金を集めて何をするのですか。（被害者のために）何も使っていません」

「（米国議会の）決議案を通すために120日間、ワシントンに通ったのに、だれもおカネを支援してくれる人がいなかったのです。米国の住む同胞のみなさんが貧者の一灯で寄付を下さるときに、その方々にあまりにありがたく申し訳なかったです。それで、決議案を通過させたのですから、どれくらい誇らしいことですか。このようなことをこのおばあさんがやってきたのですから、歓迎くらいしてくれてもよいのに、そのようなものも一つもありませんでした」

李容洙氏はこの会見に先立つ3月22日にも、記者らに「当事者たちは団体（挺対協）から徹底して疎外され、生計と生存を心配しなければならない状況に置かれている」「（挺対協は）組織が食べていくことだけに血眼になっている」、と語っている。⁽¹⁵⁾

要するに李容洙は、挺対協と尹美香に言われるままに芸をしてきたが、そこで集まった金は自分に入ってこず、挺対協と尹美香に横取りされたと、怒りを爆発させているのだ。

この李容洙会見を受けて、挺対協が反論を公開した。

まず、寄付金の使途については、李容洙氏も挺対協のおカネを3回に渡り、合計1350万 円 受け取っているとして、古びた領収書2枚と銀行振り込み書類などを公開した。李容洙氏は1992年7月に100万 円 、93年7月に250万 円 の生活支援金と、2017年11月に日韓合意にもとづく日本からの出資を受けた財団の支援金を拒否した代価として1000万 円 を、挺対協に集まった寄付から受け取ったというのだ。その上で、挺対協に集まった寄付金は、慰安婦支援以外にも国内外の運動資金や博物館などの建設維持費用にも使っている、とした⁽¹⁶⁾。

しかし、そこからかえって李容洙氏が強調した、集まった寄付金を慰安婦のために使っていないという指摘は、ほぼ正しかったことが分かった。水曜集会は92年から今まで28年近く続いているが、そのうち、94年から2016年までの13年間と、2018年、2019年の2年間の寄付は、李容洙氏には1 円 も渡っていない。

国税庁に提出した資料によると、挺対協は正義連に統合改称してから、正義連として2016年から4年間で合計49億1606万 円 （約4億3120万円）の寄付金を集めた。⁽¹⁷⁾また、挺対協名義でも平行して寄付金を集めつづけており、2014年から2019年までに合計30億5200万 円 （約2億6770万円）を集めている。⁽¹⁸⁾

	正義連名義	挺対協名義	計
2014年		3億7786万 円 、	3億7786万 円
2015年		4億8180万 円 、	4億8180万 円 、
2016年	12億8806万 円 、	5億6498万 円 、	18億5304万 円
2017年	15億7554万 円 、	8億2106万 円 、	23億9660万 円 、
2018年	12億2696万 円 、	5億1839万 円 、	17億9447万 円
2019年	8億2550万 円 、	2億9174万 円 、	11億1724万 円
合計	49億1606万 円 、	30億5200万 円 、	79億6806万 円

つまり、二つの名義で2014年から2019年までの6年間に合計79億6806万 円 、約80億 円 （約7億 円 ）という巨額の寄付金を集めているのだ。このうち、正義連が国税庁に届けた資料によると、元慰安婦に支給されたのは9億2017万 円 だけだった。正義連の集めた約50億 円 のわずか18.7%だ。⁽¹⁹⁾

2016年	元慰安婦30人に270万 円 （平均1人9万）
2017年	15人に8億6993万 円 、 8人に8億 円 （1人1億）と7人に6993万 円 （1人189万）
2018年	27人に2321万 円 、（1人86万 円 ）
2019年	23人に2433万 円 （1人106万 円 ）
合計	95人に9億2017万 円

2015年12月に安倍・朴槿恵慰安婦合意ができたが、挺対協はそれに激しく反発して、2016年から日本政府が出資する財団の支援金を拒否する元慰安婦に、韓国民からの寄付で支援金をわたそうというキャンペーンをして、大々的に募金活動をした。その結果、2016年からの募金額が急増する。その中から、2017年に日本政府出資の財団からの1億 円 を拒否した元慰安婦8人に1億 円 ずつ支給した。この8億 円 を除くと、元慰安婦への支援は信じられないほど少額の2%、1億2017万 円 にしかない。

なお、挺対協名義で集めた寄付の支出は明らかになっていないが、正義連や尹美香がそこから元慰安婦に支給したと積極的に公表していないことや、そもそも正義連発足後にも存続して寄付金集めを継続していたこと自体など、ほとんど知られていないので、挺対協名義の寄付金から元慰安婦への支給はなかった可能性が高い。そうだとすると合計80億₩のうち、たった11.5%しか元慰安婦に支給されていないことになる。

それに対して、同じ期間に正義連が元慰安婦支援以外に使ったのは17億3748万₩35.3%で、これは支援金支出の約2倍の金額だった。残り約22億5841万₩を2019年末時点で現金資産として保有していた。また、挺対協は同じ2019年末に2億2220万₩の現金資産を持っていた。合計で約25億₩になる。元慰安婦はみな高齢でいつ死亡するか分からないから、支援をするならなるべく早い段階ですべきなのに、25億₩もの資金を貯め込んでいるのだ。

元慰安婦に芸をさせて、おカネは挺対協が稼いでいるという李容洙氏の指摘は、この数字を見ても一定の根拠があることがわかる。

李容洙氏の告発を受け、主要マスコミが連日、挺対協の会計の問題点を詳しく報じた。国税庁に提出された会計書類を見ると、おかしい支出があったことが、大きく報じられた。2018年ビヤホールを経営する会社に3340万₩（293万円）を払ったと記載されている。この年、国内で使った金額の合計は3億1067万₩だから、そのうち約1割をビヤホールに払ったことになる。その年の元慰安婦への支援は2321万₩だったから、それより多い金額をビヤホールで使ったことになる。その上、同会社はその日の売り上げは972万₩であり、挺対協はそれを事業費として支払ったが、会社としてかかった経費を除いた541万₩を寄付した、と証言している。⁽²⁰⁾

挺対協はその日、ビヤホールで支援者を集めた創立28周年行事をした、この金額は宅配やケータリングサービスなど他の業者への年間の支出の合計を書類上、ビヤホール会社に支出したように書いてしまったと弁明している。しかし、その明細の公開を求める記者らに対して、自分たちにも人権がある、どの市民団体が会計を公開するかと言い放って、開き直っている。⁽²¹⁾しかし、寄付が免税となる公益財団法人の会計処理は、法律で厳密に定められた基準があり、挺対協の書類はその基準を満たしていない。国税庁が正式に書類の訂正を求める事態になっている。⁽²²⁾

韓国語で「おなかよりへその方が大きい」という言い方がある。おまけが本体より大きいという意味だが、韓国マスコミは元慰安婦を前面に出して募金活動をしてきた挺対協が、その募金の大部分を元慰安婦ではなく、自分たちの人件費や活動費に使ってきたとして、その言葉を使って挺対協を批判している。挺対協は、自分たちの運動は元慰安婦の生活支援だけを目的にしてはいない、国内外の広報・啓発活動や国際連帯活動などにもお金を使っていると言っているが、寄付金を出している側は、元慰安婦のために使われていると思っている者が多いので、元慰安婦の李容洙の批判は、韓国全体に挺対協への否定的な見方を広める契機になった。

3 水曜集会批判

李容洙は、挺対協が1992年から毎週ソウルの日本大使館前で続けてきた水曜集会に対

しても、学生生徒らの心を傷つける、そこで若い学生・生徒からカンパを集めるべきではない、などと厳しく批判し、これからは参加しないと宣言した。

「水曜日に学生・生徒らが集会に出てきても勉強になりません。私は水曜集会に出るのを止めます。これのために学生・生徒らの心の傷が大きいと考えます」

「なぜデモをして、大切な人々に苦勞をさせるのですか。勉強をしなければなりません。勉強する時間にしなければなりません」

実は水曜集会への批判の声は、李容洙の会見の前から表面化していた。2019年12月4日から、李宇衍・落星台研究所研究委員ら「反日銅像真実糾明共同対策委員会」⁽²³⁾のメンバーが毎週、水曜集会が行われるのと同時刻に日本大使館前の別の場所で、水曜集集中止と慰安婦像撤去を求める対抗集会を行っている⁽²⁴⁾。

同委員会は最初の対抗集会を開いた12月4日に、「慰安婦像撤去と水曜集集中断を求める声明」を公表した。その中の水曜集会に関する部分を、拙訳で引用紹介する。⁽²⁵⁾

1992年から30年近く開かれている水曜集会も、歴史を歪曲して韓日関係を悪化させます。この集会は像を崇拝する霊媒師の厄払いであり、歴史を歪曲する政治集会です。全教組所属などの一部教師たちは「現場学習」という美名の下、父兄の無関心を利用して純真な生徒たちを、歪曲された政治・歴史意識を注入する集会に導いています。中高生だけでなく、低学年の小学生の子供さえ動員対象です。

水曜集会は事実上不法集会です。「外交関係に関するウィーン条約」により、外交公館から100メートルの地域のデモは禁止されます。しかし水曜集会は、記者会見の形式で毎週開催されています。あらゆる口実を動員して韓日関係を悪化させて、大韓民国の安保と国際的地位を墜落・傷つけるのがその本当の意図でないのか、疑うほかありません。

慰安婦像は撤去されなければならず、水曜集会は中断されるべきです。

私たちは私たちの正当な要求が実現されるその日まで、退かないで戦います。

最初はわずか1人か2人の参加者しかいなかったし、李宇衍氏が複数回、反日派に暴行を受けることさえあった。⁽²⁶⁾しかし、李容洙会見の前後頃から、次第に女性らを含む一般国民の参加者も増えた。

7月1日についに、挺対協は92年以来初めて、日本大使館正門前の慰安婦像地域での集会ができなくなった。保守系運動団体の「自由連帯」が、挺対協より先に所轄警察署に集会届を出したからだ。ところが、親北左派の学生団体「反安倍反日青年学生共同行動」所属の学生らが、慰安婦像のすぐ横に前日から座り込み、自由連帯の警察の許可を得ている集会の開催を妨害した。警察は学生団体に、「みなさんは申告もせずに歩道を占拠しています。不法行為であるため、退去するように。従わなければ、法的に対処します」と拡声器で呼びかけるだけで、不法座り込みを実力排除せず黙認した。

そのため、その日はなんと3つの団体が同時に集会を開く異常事態になった。挺対協は大使館正門前から少し離れたところで集会をし、正門前集会の許可を得ている自由連帯は、学生らの不法座り込み地点のすぐ横で集会を開いた。不法座り込みを続ける学生らは、自由連帯の集会を妨げるように、大きな声で叫び続けた。なお、李宇衍氏らは混

乱を避けるため、前日の火曜日に慰安婦像のすぐ横で対抗集会を開いていた。⁽²⁷⁾

これまで韓国社会の中で、挺対協は一切批判を受けない聖域的存在だった。それが李容洙の会見によって、ついに水曜集会を慰安婦像横で開けなくなる事態が生まれた。日本大使館前の空間が正常化するかどうかはまだ分からないが、挺対協への批判のタブーが解けたことは間違いない。

4 尹美香批判

第三に、李容洙は4月の総選挙で与党の比例名簿7番になって当選した尹美香前挺対協代表を激しく非難した。彼女の選挙を応援していない、彼女は議員になるべきでない、と言いきる。それに加えて、2005年12月末の日韓慰安婦合意締結の際、尹だけが韓国政府から日本が10億円出して基金を作るという合意の骨子を聞かされていながら、それを実際の被害者である自分たちに一切伝えなかったと、尹を批判した。

「30年前に私の（慰安婦経歴）届け出を尹美香が受けました。30年尹美香とやってきたが、これを解決しなければならないのではないですか。解決もしないで国会議員なのか、長官なのか。そんなものは、そこに行った尹美香は、私は知りません。挺身隊対策委員会（原文ママ）でいっしょに解決しようと言っていた尹美香が、そのことをしなければならないと考えます。今日（5月7日）朝、電話が来ました。『おばあちゃん、これ（国会議員）は解決しようとしてなったのではないですか』と言ったので、私が『私は国会議員の尹美香のことは知らない。挺対協の尹美香を知っている。なぜ挺身隊と言って慰安婦のことをやるのか。』と糾しました」

先述の通り、2012年の国会議員選挙の際、李容洙は比例候補として出馬を考え、当時の左派野党に申請までしていた。そのとき、尹美香が立候補に反対した。李容洙は自分のことを「女性人権活動家」と紹介するほど、自己顕示欲が高い。だから、慰安婦運動から国会議員を出すなら、尹美香ではなく自分がふさわしいと思っていたはずだ。そのような嫉妬心が尹美香批判の背後にある、と思われる。

その上、韓国では国会議員選挙に立候補した者は、選挙管理委員会に財産申告をしなければならない。候補者本人だけでなく配偶者、両親、子弟まで含む財産申告が義務づけられている。また、候補者になれば選挙戦で、マスコミや反対政党から財産についても検証される。

選挙戦の過程で、まず、尹美香の娘が米国の一流大学UCLA音楽大学に留学中であることが報じられた。留学費用が生活費まで含めて1億ウォンくらいかかる、と報じられた。サードミサイル配備反対など、反米運動に積極的に参加していた尹美香が、娘を米国に留学させていること自体、偽善ではないかという批判がでた。⁽²⁸⁾

李容洙からすると、自分たちをダシにして集めた寄付金を、尹美香が自分個人のために使っているのではないかと、疑いを持ったとしてもおかしくない。尹は、自分の夫が90年代に国家保安法違反で有罪になったが、最近、再審で罪状の一部が無罪とされ、その後、夫と自分と娘に国家賠償金が出たので、それを学費に使ったと説明した。⁽²⁹⁾

マスコミと野党はその説明に納得せず、尹の財産申告を調べた。すると、驚いたことに本人名義で銀行預金3億2133万ウォン、マンション1億8600万ウォン、夫名義で別荘

4740万ウォンと自動車2台2594万ウォン、留学中の娘名義の銀行預金が1523万ウォン合計5億9600万ウォンあったのだ。その上、尹は現在所有しているマンションをローンを組まず現金で購入している。一方、所得税額から推計した夫婦の年間所得は合計5000万ウォン程度だから、どのようにしてこのような高額な財産を持てたのか、疑問の声が上がっている。⁽³⁰⁾ 疑惑が深まったのは、尹が公益財団法人である挺対協の口座を使わず、自分の個人口座で様々な名目の寄付を集めていたことが明らかになったからだ。尹美香は個人口座で募金を受け取ったことは不適切だったと謝罪したが、募金を私的に流用してはいないと強弁した。しかし、個人口座で受け取った募金をどこにいくら使ったのかについて、公開を拒否している。⁽³¹⁾

疑惑の極めつきは、ソウル近郊の一軒家購入だった。2012年に挺対協は現代重工業の財団からの寄付を得て、元慰安婦らの憩いの家にするとして、ソウル近郊の京畿道安城市にこぎれいな一軒家を買って、休養施設「平和と癒しが会える家」という看板をかけた。購入価格は土地と建物合わせて7億5000万ウォン（約6500万円）だったが、これは相場の約2倍近くで、しかも交通が不便で、高齢の元慰安婦が訪れたり居住したりするのに適していない場所だった。だから、そこには元慰安婦は誰も居住せず、尹の父が管理人と称して1人で住んでいた。尹美香はそこを自分たちの休養施設として使い、ときどき挺対協の事務局員らと泊まりがけで訪れていた。尹美香がSNSにアップした写真から、尹が挺対協関係者と癒やしの家で開いた宴会では、日本製の菓子がつまみとして出されていて、本当は日本が好きなのかとからかわれるというハプニングもあった。それだけでなく、外部に宿泊施設として貸し出してもいた。その代金がどのように会計処理されたのかも不明だ。挺対協は李容洙氏が尹美香批判の会見をした翌日に、この一軒家を4億2000万ウォンで売り払い、多額の損失を出し、尹の父も退去した。⁽³²⁾

後述のように、尹の夫はこの施設を北朝鮮につながるかのような政治活動のアジトとして使っていた。挺対協と尹美香の親北活動については、5つ目の問題点として後述する。

5 李容洙の証言への批判

第四に、李容洙は挺対協が出した証言集について、自分はそこに書かれているように話していないのに、それを販売して金儲けしていると批判した。

「1993年から本が出たでしょう、挺身隊対策協議会から。それを6500₩で販売していたのです。そこに出てくる証言は間違っています。私はなぜ、そんな本を売ることかと言いました」

実は李容洙のこの発言を、韓国はもちろん日本でもほとんど注目しなかった。だから、日韓の多数のメディアは、李の挺対協批判は本論文で取り上げた上記三点だけだとしていた。

なぜ、李容洙が挺対協の証言集を批判しているのか。そこに、李容洙と挺対協の内紛の根本原因が潜んでいる。それを示唆する記事が、李容洙の会見の直後の5月9日に左派系の「ハンギョレ新聞」に出た。

正義連帯の内部事情をよく知っている関係者は、「日本と保守陣営などで李容洙おぼ

あさんについて『ニセ被害者』だなどの攻撃があったが、李おばあさんが公開的な席で『言われるとおり証言をしてきたのになぜ、保護してくれないのか』と、正義連帯への不満を吐露したこともある。

ここで保守陣営と言われているのは、韓国内の保守陣営のことだ。李容洙が公権力による強制連行によって慰安婦になったのではないということは、日本ではかなり早くから論じられていた。秦郁彦氏や私も、挺対協が出した証言集などを根拠にして、そのような判断を1990年代後半に書いていた。⁽³³⁾問題はその日本での研究成果が、韓国に伝わっていないことだった。ところが、韓国の保守陣営からも李容洙証言を批判する意見が出始めていて、それを李は強く意識し、なぜ挺対協が自分を守ってくれないのかと不満を持っていた、ということだ。確かに、韓国の勇気あるジャーナリストが、数年前から挺対協批判のタブーに挑戦する仕事に取り組んでいた。

ネットメディアである「メディア・ウォッチ」代表理事の黄意元氏が2014年、尹美香をはじめとする挺対協幹部らは北朝鮮に近い活動家だという告発記事を、「メディア・ウォッチ」サイトに書いた。そのときは本名でなく、女性記者の名前で書いた。慰安婦問題そのものに触れることはその時はまだ怖かったので、北朝鮮との関係という切り口でそれも女性の名前で書いた、と黄記者は述懐している。それだけ大きなタブーがあった。

2016年に挺対協と尹が、刑事と民事で名誉毀損だと訴えた。それで挺対協と全面的に戦う覚悟を決めた黄氏は、2018年4月に慰安婦問題そのものが虚構だという内容の、李容洙に関する記事を書いた。それが長文のネット記事『『従北』文在寅のための『嘘つきおばあさん』、日本軍慰安婦李容洙』だ。⁽³⁴⁾

その記事で黄氏は、李容洙が1993年以来、様々な場所で行った20の証言を集めて、①慰安婦になった経緯、②時期、③年齢、④慰安所に連れて行った主体、⑤慰安婦生活をした期間、について表を作って比較した。その結果、それが全部異なっていることを具体的に明らかにした。

表・李容洙氏の慰安婦になった経緯に関する証言の変遷（黄意元氏作成）

番号	証言時期	慰安婦になった経緯	慰安婦になった時期	年齢	慰安婦にした主体	慰安婦として働いた期間	出所
1	1993	家出、人身売買、就業詐欺	1944年秋	満16歳	軍服のような服を着た日本人男	10 ヶ月	挺対協編「証言集1」
2	1997	連行？	1944年？				「ハンギョレ新聞」1997.9.6
3	1998.5		1942年	14歳		3年	同 1998.5.6
4	1999.3		1942年	満14歳		3年	同 1999.3.6
5	2002.6	銃剣脅迫？		14歳			日本共産党「しんぶん赤旗」2002.6.26

6	2004.12	連行?	1944年	16歳	軍服のような服を着た日本人男	3年	日本京都慰安婦証言集会・ホームページのプロフィール
7	2006.7	強制連行	1942年	15歳	日本軍	3年	憲法裁判所提訴記者会見・「東亜日報」2006.7.6
8	2007.2	連行?	1944年	16歳	?	3年	米議会証言・「聯合ニュース」2007.2.16
9	2007.6	強制連行	1944年10月		日本軍	10 ヶ月	韓国EBS「時代の肖像」・「オーマイニュース」2007.6.9
10	2009.3	強制連行		15歳	日本軍		「私は日本軍慰安婦だった」(新日本出版社)・「iRONNA」2017.11.29竹嶋渉記事から再引用
11	2012.9	強制連行		17歳	日本軍	2年	「嶺南日報」2012.9.14
12	2014.7	強制連行		15歳	日本軍		漢陽大証言・「ニューシス」2014.7.4
13	2014	就業詐欺		16歳	日本人男		「アジア経済」ネット企画記事「慰安婦報告書55」
14	2015.3	強制連行	1943年夏	16歳	日本軍	2年	人文学の会「トゥ・モク会」証言・「オーマイニュース」2015.3.15
15	2015.4	強制連行	1943年10月	14歳	日本軍	2年	「ワシントン・ポスト」2015.4.22
16	2015.4	強制連行?		15歳	日本政府?		ウェブマガジン「ニュースロ」インタビュー・「ニューシス」2015.4.23
17	2015.6	強制連行	1943年秋	16歳	日本軍	2年	「未来韓国」2015.6.24
18	2016.12	強制連行	16歳	日本軍			法廷証言・「ハンギョレ」2016.12.20

19	2017.1	就業詐欺？					法廷の外での会見・「聯合ニュース」2017.1.25
20	2018.3	強制連行		15歳	日本軍		フランス議会証言・「東亜日報」2018.3.10

黄氏はこの表を作って分かったことについて、次のようにわかりやすく語っている。⁽³⁵⁾

全部、内容がちがっている。前と後ろが一致するものが一つもない。代表的なものをあげると、最初は日本人に連れ去られたといていたのが、後には日本軍人にかわる。最初は赤いワンピースに革靴に誘惑されてついて行ったといていたのが、後には刀を背中に突きつけられて連れて行かれたとかわる。期間も自分が1944年に連れて行かれたといいながら3年間慰安婦生活をしたという。話にならない。1945年8月に韓国は植民地から解放された。それで計算が合わないからあとで年度が1942年にかわった。ところが、また1944年にかわり、再び期間が8ヵ月にかわり、このようなことばかりだ。

2007年2月に米国議会に行って証言した。これが後日、『アイキャンスピーク』という映画にもなった。2018年3月にフランス議会に行って証言した。ところが、本当に深刻な問題だが、米国議会証言とフランス議会証言がちがっているのだ。国際社会でもっとも公式的な証言がちがっている。

2007年2月米国議会証言では、1944年に連れて行かれたと言っている。その証言の中でも矛盾がある。そこでも3年間、慰安婦生活をしたと言っている。そしてそのときには連れて行った主体について話していない。ただ、連れて行かれたとしか言わない。日本軍という話も、刀という話もなかった。ところがフランス議会では、日本軍が自分の背中に刀を突きつけて連れて行った、という。

93年には、赤いワンピースと革靴に誘惑されて日本人について行った、だった。証言が日本軍強制連行の方向に次第に過激になっていく。最初は日本軍強制連行ではなかったのに、次第に過激になっていって、2018年フランス議会証言では完全に日本軍強制連行だと断定した。それで私たちは到底彼女を信じられない、ニセ慰安婦だと私たちは見ている。本人が自白をしない限り、本当のことは分らない。慰安婦証言は物証がない。第3者の証言さえない。目撃者もない。唯一本人の証言しかない。それだからこそ、本人証言の一貫性くらいはなければならないのに、李容洙氏の公的な証言は一貫しているものが一つもない。

それで李容洙氏について、ニセ慰安婦疑惑を提起しました。

黄氏はこの記事を挺対協と尹美香に送付し、回答をせよと求めた。挺対協は回答文書を送ってきた。ところが、そこでは挺対協の名誉を傷つけるなという内容しか入っておらず、黄氏が告発した李容洙証言の矛盾点についての反論は一切なかった。挺対協は李容洙の名誉を保護する意思を示さなかったということだ。それどころか、黄氏によると、この記事が出た後頃から、尹美香と挺対協は李容洙を運動の前面に出さなくなった。⁽³⁶⁾

李容洙からすると、挺対協の証言集で赤いワンピースと革靴に誘惑されて自発的に日本人女衞について行ったと語っていることが根拠となって、自分の証言の信憑性に攻撃が加えられている。だから、尹美香らの言うとおりの証言してきたのに、尹らが自分を守ってくれないと不満を持っているのだ。それが李容洙の挺対協攻撃の隠れた動機なのだ。そして、これこそ、挺対協にとってだけでなく李容洙にとっても「不都合な真実」だった。

韓国の勇気あるジャーナリストの緻密な報道が、李容洙と尹美香らがこれまで積み上げてきた嘘を暴き始めた。そして、2019年には李栄薫・ソウル大学前教授らが慰安婦問題に関する実証的な究明を行った『反日種族主義』が出版され、韓国でも11万部以上が売れるベストセラーになった。韓国でも慰安婦に関する真実が少しずつ力をつけてきた。

その中で李容洙は、自分の証言の嘘が広く知られ、人権運動家としての名誉が傷つけられるかも知れないという危機感を覚えつつあった。一方、挺対協側は李容洙の証言の嘘は隠しようもないので、彼女を運動の正面に出すことを控えるようになった。内部矛盾が拡大したのだ。それが今回の内紛の隠されている背景であり、李容洙と挺対協両者にとっての「不都合な真実」だ。内紛は、ただ単純に、抜け駆けで国会議員になった尹美香への嫉妬と金銭的不満だけで起きたのではなかった。

ただし、この論点はまだ、韓国の大手新聞やテレビなどでは一切報じられていない。一部の勇気あるネットメディアと良心的な学者、ジャーナリストがそのことを発信している段階だ。

6 挺対協と北朝鮮の癒着

李容洙が会見で触れなかった5つ目の問題点として、慰安婦運動が北朝鮮の対南工作と密接な関係があるという政治的偏向がある。挺対協タブーが解けたことで、李容洙証言の嘘という、隠されていた「不都合な真実」が韓国でも暴露されはじめた。そしてやはり挺対協タブーが解けたことで、今回、韓国マスコミの精力的取材が始まり、その結果、挺対協と北朝鮮の癒着という二つ目の「不都合な真実」が浮上してきた。これは、李容洙は全く言及していない論点だ。

専門家たちは、挺対協と北朝鮮との繋がりについて一定程度は知っていたが、今回、新たに驚くべき事実が次々に明らかになっていった。尹美香の夫の金三石は彼の妹金銀周とともに1993年、兄妹スパイ事件犯人として逮捕された。金三石は日本に来て、北とつながりのある韓統連などと接触して軍事機密を渡して五十万円の資金を受け取り、韓国内の情報を伝えていたのだ。二人は国家保安法違反で有罪となった。金三石は懲役4年の実刑、妹の銀周は懲役2年、執行猶予3年だった。また、銀周の夫である崔ギョンは2006年一心会スパイ事件で逮捕され、懲役3年6ヵ月の実刑判決を受けている。尹美香のすぐ近くに3人の北朝鮮のスパイ事件有罪者がいるのだ。⁽³⁷⁾

マスコミの精力的取材により、尹一家だけでなく、挺対協そのものが親北であることも明らかになった。その代表例が、元慰安婦の葬儀のために集めた寄付金を親北団体などに配っていたことだ。2019年1月に亡くなった元慰安婦金福童の葬儀に際して、2億2726万ウォンの弔慰金を尹美香の個人銀行口座に集め、葬儀に1億ウォンを使って、残高約1億3千万ウォンを遺言も公開せず、故人の意志だと称して、自分たちの仲間であ

る反米、親北団体に支援金として配り、仲間の子弟に奨学金として与えるなどしながら、元慰安婦のためには全く出していないことが明らかになった。

2200万ウォンを、尹らが勝手に選んだ11の親北反米団体へ200万ウォンずつ寄付した。そのなかには、韓国に亡命した北朝鮮食堂の女子従業員を北朝鮮へ送り返す運動をしている団体、米軍基地、韓国軍基地反対運動団体、北朝鮮のスパイなどの容疑で収監されている囚人の家族の団体、北朝鮮にトラックを送る団体などが含まれており、慰安婦問題に関係する団体は一つもない。また、やはり弔慰金残額から二千万ウォンを使って、挺対協の理事の子弟を含む左派運動体の専従者の子弟10人に、奨学金と称して1人200万ウォン支給している。

金福童弔慰金から2000万ウォンの寄付を受けた団体⁽³⁸⁾

1. 脱北従業員真相究明及び送還対策委員会（2016年に亡命した北朝鮮食堂従業員13人の北送を求める）
2. 民主化実践家族運動協議会（国家保安法撤廃運動を展開）
3. 良心囚後援会（国家保安法違反などで刑務所にいる囚人釈放運動）
4. 全国農民層連盟（北朝鮮にトラクターを送る運動展開）
5. 故金ヨンゲン死亡事故真相究明及び責任者処罰市民対策委員会（非正規職問題解決を要求）
6. 江汀の人たち（済州韓国海軍基地建設反対運動）
7. 韶成里サード撤回星州住民対策委員会（米軍サードミサイル反対運動）
8. サード配置反対金泉対策会議（米軍サードミサイル反対運動）
9. 三星一般労組（三星内に労組を設立）
10. ヘッサル（陽ざし）社会福祉会（米軍基地村の女性人権運動）
11. ミートゥー市民行動（女性暴力対応）

ここで「脱北従業員真相究明及び送還対策委員会」に注目したい。2016年に集団亡命した北朝鮮食堂の13人について、北朝鮮は拉致だと言って送還を要求し続けている。それに合わせて、韓国の左派は北に返せと運動してきた。尹の夫の金三石は従業員らを、安城の「平和と癒しが会える家」に招いて、北朝鮮に帰国するよう説得工作をしたことが暴露された。尹の夫である金三石が元食堂マネージャーに、「地方に行って肉でも食べましょう」と誘った場所が、前出の安城の挺対協の施設だった。マネージャーと3人の女性従業員が施設に行くと、金三石と上記3番の「良心囚後援会」関係者、挺対協関係者など7人が待ち構えていた。金三石らは北朝鮮の革命歌を歌い、「偉大な元帥金正恩同志」などと言いながら、従業員らに北朝鮮に帰ることを説得したと、食堂マネージャーが写真付きで暴露したのだ。⁽³⁹⁾

要するに、慰安婦問題を隠れ蓑に親北運動を展開しているのだ。もともと、挺対協は元慰安婦の人権を考えているのではなく、北の立場に立って日韓関係を壊すための政治活動をしている疑いが強かった。それがもはや疑いではないことが明らかになってきた。



元食堂マネージャーが韓国マスコミに提供した
安城の「平和と癒しが会える家」で記念撮影している3人の北朝鮮食堂元従業員。

おわりに

尹美香は多くの批判にさらされながらも、2020年5月末に国会議員としての活動を始めた。寄付金の使途などについて捜査をしている検察が、捜査開始から3ヵ月経った8月13日に尹美香への事情聴取を行ったが、その後も捜査は進まない。文在寅政権が法務部長官を通じて検察に強い圧力をかけ、政権に不利になる捜査を妨害しているためではないかと、保守マスコミは書いている。

李容洙も挺対協の尹の後任の理事長と何回か面会するなど、表面的には李容洙の挺対協批判から始まった韓国慰安婦運動の内紛は収まったかのようにも見える。

しかし、内紛の結果、挺対協などの慰安婦運動を批判することに対するタブーが解けた。その結果、本論文で見てきたように、慰安婦の証言に立脚して挺対協などが内外に広めてきた「強制連行、性奴隷」説が虚偽だということを、公然と主張する勇気あるジャーナリスト、学者、運動家が韓国で多数出現してきた。挺対協と北朝鮮の癒着も、韓国内で知る人が増えている。

尹美香は批判に対して、「親日が清算できていない国で女性、平和、人権の茨の道に入った人間が直面しなければならない宿命だと思って、堂々と立ち向かう」「屈辱的な韓日慰安婦合意を締結して一言の謝罪もしない未来統合党（野党）、日帝に迎合していた奴隷根性を捨てられない親日言論、『慰安婦は売春』という見方をいまでも変えていない親日学者に立ち向かう」とSNSに書いた⁽⁴⁰⁾。

批判してきた者を無条件に「親日」だとレッテルを貼る、韓国の親北左派の典型的な論理だ。しかし、真実は力がある。彼女らはこれから、真実を語る者らを権力で弾圧する、全体主義的な方法をとるだろう。ウソの歴史認識を強要することが、全体主義国家の権力維持の基本だからだ。韓国が自由民主主義に立つ文明国として生き残れるのかどうかの、激しい戦いが続いている。

注

1. 1990年に韓国挺身隊問題対策協議会として発足し、活動していたが、2018年7月、2016年に設立した日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶財団と組織統合し、名称を日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯（正義連）に改称した。
2. 李容洙が会見を開いた翌日の5月8日に名指しで批判された尹美香が、フェイスブックに李氏について次のように書き込んだ。「1992年に申告の電話をかけてきたとき私が電話を受けたが、蚊の鳴くような声で震えながら『私は被害者ではなく、私の友人が…』と話されたその時の状況を昨日のように覚えている」「そしてほとんど30年あまり一緒に歩いてきた」と書いた。この書き込みを根拠に李氏はニセ慰安婦であり、その事実を知っている尹氏が李氏を脅したという認識がその直後に韓国で広がった。しかしすぐ後で、最初は名乗り出ることに躊躇していたので「友人が」と話したが、その後、挺対協の聞き取りなどで詳しく自分が慰安婦になった経緯を語ったという事実が確認され、ニセ慰安婦説は韓国では姿を消した。ところが、事情を知らない一部の日本人らはいまだにニセ慰安婦説を信じているようで残念だ。
3. 1997年2月27日、韓国ソウルで開催された「市民連帯国際セミナー」で当時の挺対協共同代表だった尹貞玉はアジア女性基金の償い金を受け取れば志願して行った公娼となる」と発言した。彼女がセミナーに提出した報告文「日本軍「慰安婦」問題、いまここに来ている」にはこのような記述があった。「罪を認めない同情金を受け取ったら、被害者は志願して行った公娼となるのであり、日本の罪は消えてしまうのである。そういう意味で、同情金である日本の国民基金ではなく真心を込めて集めたわれわれの誠金を差し上げようとしているのである。そして法的な責任を負う謝罪と賠償をもらおうとしているのである。これは決して簡単なことではない。しかしわれわれは成し遂げなければならない。そのためにまずわれわれは『強制連行された日本軍「慰安婦」問題を解決する市民連帯』を設立し募金を始めたのである。」
4. 「聯合ニュース」電子版2007年2月16日
5. 「東亜日報」電子版2007年8月1日
6. 「聯合ニュース」電子版2012年3月9日
7. 韓国のCBS（キリスト教放送）が運営するネットニュース「ノーカットニュース」は2020年5月27日に、尹美香が李容洙との電話で、国会議員出馬を止めるように説得しているところを録音したテープを入手して、その内容を公開した。同ニュースによると、2012年3月8日の電話で、李が慰安婦問題を解決するため国会議員になると話したのに対して、尹が「国会議員にならなくてもできるのではないですか」と出馬に反対している。
8. 【報告】サンフランシスコ市委員会「慰安婦記念碑建立」公聴会9月17日『なでしこアクション』ウェブサイト
<http://nadesiko-action.org/?p=8995>
9. 黄意元『『従北』文在寅のための『嘘つきおばあさん』、日本軍慰安婦李容洙3』（韓国語）韓国ネットメディア「メディア・ウォッチ」2018年4月14日
10. 韓国のネットニュース「Eディリー」2017年10月11日
11. 「聯合ニュース」電子版2017年11月7日
12. 『慰安婦問題を巡る日韓間のやりとりの経緯～河野談話作成からアジア女性基金まで～』首相官邸HP
13. 「産経新聞」電子版2017年12月27日
14. 会見での発言の引用は、ネットニュース「月刊朝鮮ニュースルーム」2020年5月8日に掲載された月刊朝鮮朴ジヒョン記者の会見全文記事から、西岡が翻訳した。李容洙の発言は多弁で饒舌だが論理的ではなく、なかなか何が言いたいかわからないものだ。また、自分はただの元慰安婦ではなく「女性人権活動家としての自負心を持っている」、世界的な著名人だということを取り返し語るなど、自己顕示欲の強さがでてくる。また、台湾で日本軍カミカゼ特攻隊が利用する慰安所で働いたと証言していることから、じぶんのことを「カミカゼ被害者」「特攻隊被害者」と呼び、元慰安婦として一番有名な、最初に名乗り出た金学順と自分を同格に扱って、次のように発言している。「はじめは金学順おばあさんがやりました。最後は堂々たる被害者、カミカゼ被害者李容洙が最後に解決するのです。被害者、堂々たる特攻隊被害者、カミカゼ被害者李容洙が最後をやります。」

15. 韓国のネットニュース「ペンアンドマイク」2020年5月9日
16. 「李容洙おばさん記者会見に対する正義連の立場」(韓国語) 2020年5月8日、正義連サイトにアップhttp://womenandwar.net/kr/notice/?pageid=16&uid=697&mod=document&fbclid=IwAR2Ue0d0pMCpr2W-nVdEbyLTKAb7u9Zg3Ui3DofMU_hXoTKvawpR0oaQph4
17. 「朝鮮ビズ」(朝鮮日報社が運営するネット経済ニュース) 2020年5月8日
18. 同上
19. 「ペンアンドマイク」2020年5月9日
20. 同上2020年5月12日
21. 「東亜日報」電子版2020年5月12日
22. 「朝鮮日報」電子版2020年5月12日
23. 「中央日報」電子版2019年12月3日
24. 西岡力「日韓改善へ歴史的事実に基づき反論せよ」国家基本問題研究所ネットコラム「今週の直言」、2019年12月16日アップ
25. 私が訳した声明全訳は、国家基本問題研究所サイトにアップされている。
<https://jinfp.jp/feedback/archives/28154>
26. 西岡力「李宇衍博士暴行を傍観した韓国警察」国家基本問題研究所ネットコラム「ろんだん」、2019年12月23日、
注25の声明全訳の下に、李宇衍氏が暴行を受けたときの連続写真が掲載されている。
27. 名村隆寛「【28年間で初】正義連の慰安婦像前「水曜集会」が2週連続開けず…三つ巴“陣取り合戦”の顛末」ネットコラム「文春オンライン」2020年7月4日
自由連帯は、翌週水曜日も同じ場所で集会を行う許可を取っていた。そのままいくと2週連続で挺対協は慰安婦像横の集会ができなくなるところだった。ところがソウル市が7月3日に突然、日本大使館前での集会をコロナウイルス予防を理由に禁止した。実はすでにソウル中心部の屋外集会は、コロナを理由に禁止されていた。ただ、挺対協を特別扱いするかのように、日本大使館前の道路だけは集会禁止区域からはずされていた。それが、別団体が集会許可を得たら、すぐ禁止区域に入れたのだ。挺対協を支援し続けてきた、朴元淳ソウル市長の露骨な政治介入だった。
28. 「朝鮮日報」電子版2020年5月9日
29. 「朝鮮日報」電子版2020年5月11日
30. 「中央日報」電子版2020年5月21日
31. 「ハンギョレ新聞」電子版2020年5月19日
32. 「中央日報」電子版2020年5月17日、「朝鮮日報」2020年5月16日、5月17日、5月18日、『新東亜』2020年6月号
33. 秦郁彦『慰安婦と戦場の性』1999年191～193頁、西岡力「『慰安婦問題』誰も誤報を訂正しない」『諸君!』1997年5月号、この論文は1998年に出版した拙著『闇に挑む!』徳間文庫に収録した。
34. 『月刊正論』2020年8月号に抄訳が掲載されている。
35. 韓国のネットメディア「ペンアンドマイク」のYouTube放送2020年5月15日、「メディア・ウォッチ」サイトに日本語字幕付きの映像がアップされている、https://www.youtube.com/watch?time_continue=15&v=_p-IL4Rhfe0&feature=emb_logo
36. 同上
37. 西岡力『増補新版よく分かる慰安婦問題』草思社文庫273頁。
金三石は2016年に再審請求をし、2017年5月大法院は、国家保安法違反は間違いないとしながらもスパイ容疑はないとして、懲役2年・執行猶予3年に減刑し、1億9000万ウォンの刑事補償金が支払われた。それを受け金三石、尹美香夫婦と娘は、スパイとの烙印を押され精神的苦痛を受けたとして、国に対し損害賠償請求訴訟を起こし、2018年7月ソウル高等裁判所は、家族3人に計8900万ウォンを支払うよう命じる判決を言い渡した。尹美香は、娘の米国留学費用はこれらの国家から得た補償金、賠償金をあてたと主張している。
38. 「朝鮮日報」電子版2020年5月16日
39. 「朝鮮日報」電子版2020年5月21日
40. 2020年5月12日、尹美香がフェイスブックに書き込んだ内容の要旨。その部分の全訳は、以下の通り。
「親日が清算できていない国で、個人の生活を後回しにして、正義、女性、平和、人権の茨の道

に入った人間が直面しなければならない宿命だと思って、堂々と立ち向かいます。

正義連と私に対する攻撃は、30年間継続された世界的な人権運動の歴史的な成果を踏み潰し、21代国会でより力強く展開するであろう慰安婦真相究明と謝罪と賠償要求に、平和人道運動に冷や水を浴びせかけようとする保守言論と未来統合党が作った謀略劇の以上でも以下でもありません。

屈辱的な韓日慰安婦合意を締結して一言の謝罪もしない未来統合党、日帝に迎合していた奴隷根性を捨てられない親日言論に立ち向かいます。『慰安婦は売春』という見方をいまでも変えようとしない、親日学者に立ち向かいます」